福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年８月 18 日現在
（専技情報より抜粋）

◇早期水稲（夢つくし、ｺｼﾋｶﾘ）◇

４月中下旬植の「夢つくし」「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べてやや早く、収穫作業は８月 16 日頃から本格化しました。

台風による倒伏は少なく、収量は平年並みと見込まれるものの、登熟期が高温で経過したため、白未熟粒の発生が多い見込みです。

また、イネカメムシによる吸汁害の発生も一部で見られ、収量及び品質の低下が懸念されます。

気温が高い日が続いているため、刈り遅れにならないよう適期に収穫を行い収穫後は直ちに、適切な乾燥を行いましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ﾋﾉﾋｶﾘなど）◇

出穂期は、６月 10 日植「夢つくし」が８月８日、６月中旬植「元気つくし」が８月 19 日頃で、平年並みの見込みです。

トビイロウンカや葉いもちの発生は平年より少ないものの、イネカメムシの発生が一部地域でやや多いです。

「夢つくし」の成熟期は、平年並みからやや早いと予想され、収穫は９月中旬が最盛期となる見込みです。

間断かん水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。
出穂・開花期の水は切らさないよう努めましょう。
台風通過時は、深水管理としましょう。

中生以降の品種では、トビイロウンカ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類の発生に留意し、適期に対策を行いましょう。

◇大豆◇

播種は、平年に比べてやや遅く、７月下旬までにほぼ終了しました。
播種後の降雨により一部で発芽不良が発生し、再播種を行ったほ場もあるものの、全体的に出芽は良好です。
高温多照により生育は順調ですが、全体的に播種が遅れたため生育量はやや少ないです。
開花期は平年並みからやや早く、６月下旬播種で８月 13 日頃、７月 15 日播種で８月 22 日頃、７月 25 日播種で８月 30 日頃の予想です。
まとまった降雨に備えるため、うね溝と排水溝の整備を行い、排水対策を徹底しましょう。
開花期までに中耕・培土を行いましょう。
生育量が少なく、葉の黄化が見られるほ場では、追肥により生育を回復させましょう。

◇アスパラガス◇

夏芽の出荷は、７月上旬がピークで、その後は徐々に減少しました。
10 月下旬までの出荷予定です。
高温により草勢が低下しており細茎傾向です。
曲がりや穂先の開きなどが見られます。
病害虫は、アザミウマ類、ヨトウ類等の害虫や斑点性病害が散見されます。
換気、かん水の徹底等、高温対策を行い、草勢回復を図りましょう。
また、病害虫防除を徹底しましょう。
台風対策等で、ハウスを閉めこんだ後は、病気が発生しやすいため、十分に換気し、予防対策を行いましょう。

◇ブドウ◇

「巨峰」、「ピオーネ」は、加温、無加温ハウスの出荷が終了し、現在、トンネル、露地が出荷中です。
果実肥大は良いものの、６月下旬～７月上旬の寡日照により、着色不良傾向で出荷が遅れ気味です。
べと病の発生が多いです。
収穫が遅れると、晩腐病の発生につながるので、適期収穫に心がけましょう。
収穫後は、べと病、トラカミキリ等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇ナシ◇

露地「幸水」は、８月上旬で出荷終了しました。
小玉傾向で、黒星病の発生もあったことから、収量は平年を下回りました。
露地「豊水」の出荷は、８月８日から開始し、本格出荷は８月盆明け頃の見込みです。
収穫は、病害虫被害果、日焼け果、水浸果に留意し、果実品質等の状況をみながら、適期に行いましょう。
収穫後の果実は、直射日光を避け、品温上昇を防ぐ対策を講じましょう。
今後、ヤガ、シンクイ、カメムシおよび炭疽病の発生状況に留意し、早めの対策を行いましょう。

◇施設ギク◇

「精の一世」「フローラル優香」等の夏秋ギクが出荷中です。
お盆向けの出荷作型は、梅雨明け後の高温により、開花が遅延する傾向です。
そのため、お盆以降にも出荷が残る見込みです。
スプレーギクの単価が安定しているため、輪ギクから転換する動きが見られます。
高温時の定植や直挿し栽培では、予定日の３日前までには、寒冷紗等を被覆し、施設内の地温を低下させましょう。
活着までの１～２週間は、過不足のないかん水を行いましょう。
定植用の穂は採穂前の殺菌を徹底し、苗立枯症対策を徹底しましょう。

◇シンテッポウユリ◇

生育は、梅雨明け後の高温、強日射によりやや遅延し、出荷最盛期は８月上旬となりました。
品質は概ね良好で、８月中旬以降も出荷が継続されます。
連作を避け、日照、排水が良好なほ場の確保を行いましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇

牛枝肉単価は、6月から電気料金が上がり、消費者の節約意識がさらに高まって、単価の高い和牛去勢は前年をかなり下回りました。

一方、乳去勢等のスソものは引き合いがあり、省令価格は前年と同水準です。

8月の全国的な生産量は前年同月をわずかに上回る見込みです。

豚枝肉価格は、猛暑による増体遅延で供給量低下が懸念され、前年比は同じだが、過去5年平均比では上回りました。

8月の全国的な生産量は前年同月をわずかに下回る見込みです。

鶏卵価格は、前年比、過去5年平均比ともに大きく上回ったものの、供給量が回復傾向で前月よりも低下しました。

高温多湿で低下する飼料摂取量確保のため、十分な給水、送風や遮光、ビタミンやミネラルの補給等の暑熱対策を徹底しましょう。

台風の発生が懸念されるため、台風対策やその後の疾病予防対策をしっかりと行いましょう。